

軍艦見島特別任務報告

1130

特別任務報告

軍艦見嶋

1131

内容目次

任務経過概要

準備日誌

各科準備摘要

アレキサンドルスカヤ」行動日誌

インペラトルスカヤ」行動日誌

(終)

任務經過概要
準備日誌

1133

任務経過概要

旧臘ヨリキック政府ノ没落ガ西伯利亚政府同ニ興ヘタル變動ノ餘波ヲ受ケ本年一月四日北樺太アレキサンドロフスキーハエスネル派ノ掌中ニ取テ從來全市監獄ニ收禁中ナリ過激派ノ人々全部釋放セラレ自由ノ身トナリ是レ代リテ從來全市ニ政權ヲ掌握セル由政府員其位置ニ彼此相顛倒トシ凶ノ身トナレニ至リ又而モ一方ハ「ヨライブス」ニ於ケル本邦民々身辺ノ危急ヲ傳フルアリ近リハ北樺太東沿岸地方ニ北良會採鑛事業也過激派の氣分ニ浸潤セリ情勢ノ不穩ノ報頻々ト到リ遂ニ止マリ作業中止トシテ同國境ニ向ヒ引揚グルノ餘儀ナキ至レリ入電アリ此秋ニ當リ彼地在凶邦人ノ身命財産並利權保護任務ヲ以テ三笠見島兩艦シ今方面ニ派遣サレトナリ一月廿八日舞鶴ニ於テ其命令ヲ受領シ爾會後出勤諸準備ヲ行フニ至レリ一月廿九日本艦ハ三笠ト共ニ舞鶴鎮守府敷設備艦ト定メレ二月九日午前九時前記任務ヲ帯ヒテ小樽面々接錨出港セリ二月十日午後時小樽着直ニ炭水補給ヲ了レ翌十三日午前六時本艦ハ三笠先任艦長ノ指揮下ニ合艦ト共ニアレキサンドロフスキーニ向テ發航セリ途中北緯五十度附近ヨリ海面

全部結氷原トナリトモ西艦尚ホ北上ヲ續行シ十五日礮ヲアゲテ沖ニ達ス兩後
 數日ニ亘リ進出ヲ試ミモ全地以北ハ堅氷ノヲト遂ニ亞港沖ニ達スルヲ得ス此間陸兵揚陸
 地偵察爲メ本艦ハ「デカストリー」號ハ進出ヲ試ミモ之亦堅氷ノヲ其前路ニ遮
 ラレ遂ニ目的ヲ達セズニテ終レリ一方ニ亞市ニ至リ亞市在留本邦人ト間ニ無線電
 信ニ依リ通信連絡ノ路ヲ開キ翌十九日早朝「アグネ」附近ヨリ交渉爲メ亞市ハ派遣委
 員ヲ間派ト行ハシ亞市着爾後彼也革命政府委員ト間ニ極メテ円満裡
 ニ折衝ヲ遂ゲテ將來ニ對スル誓約ヲセシメ茲ニ於テ訓令ニ基キ本艦ハ二十日朝
 刻ニ亞市ハ重市派遣委員ニ行ハシ收容後夫々小樽商會發札ヲ尙ホ般航途兩艦共
 陸兵揚陸地偵察ヲ行ヘリ二十日午後七時本艦小樽着今二十日正午三時着
 西艦共次回行動ニ關スル諸準備ヲ行ヒ小樽港ニ碇泊待命中三月十六日海軍次官
 ヲ以テ亞艦長宛發セラルル訓電ニ基キ更ニ同艦長宛セル訓電令ヲ三月二十日度
 領商港ニ於テ堤商會委員五名及ビ東亞木材株式會社社員一名ノ便乗スルヲ待ツ
 三月廿三日午後一時「ペンタス」カク在留邦人保護及ビ全地方状況視察ノ任務ヲ帯ビ

予軍独イペラトルスカヤ面へ出港ス本航海中「ミヤポイント」附近ニ於テ一時氷原ニ
 入りトモ何事行動ヲたせラル、ゴトリ予定ノ如ク今月廿五日午前十時「セントミヤポイント」
 沖着時校一ト士半五名ヲ令燈台ニ派シ該地方ノ状況ヲ曉取レ更ニ「イペラトルスカヤ」
 鵜ノホニ進入ヲ試ミタルモ結氷多ク不可能ナリト以テ令燈台沖ヲ投錨時校一ト士半
 五名及ビ便乗者全部ヲ令燈台下ニ揚陸セシメ陸路「イペラトルスカヤ」ヲ派遣シ漁事所
 命ノ任務ヲ完了シ今月廿八日午右三時派遣員及ビ便乗者ヲ收容シ小樽面へ出港
 ス今月二十日小樽午前十時十五分小樽入港

一月二十日 水曜 日誌

位置 舞鶴軍港 天候 雨 氣温 五度
 午前九時鎮守府ニ於テ左記電報ヲ示達セラル
 北洋太形勢不穩、予ミ居留民保護ノ多ク結氷期間「アキサン」トラスキ」ニ

派遣セラルベトシ準備ニ何日ヲ要スルヤ

一月二十日 水曜日

位置 舞鶴軍港 天候 雨 氣温 六度

主要作業

一、入港準備 只修理請求ハ各科積載品請求

一月二十日 金曜日

位置 舞鶴軍港 天候 雨 氣温 七度

一、舞鶴鎮守府警備艦ト定ムラル

一、本日付ニ本艦乗員任命アリ

主要作業

一、午前九時第一乗組ヲ入港 只艦内整頓

一月三十一日 土曜日

位置 舞鶴軍港 天候 微雨 氣温 五度

先任参謀上京、際聴取覺書 其一

一、搭載物件

(一) 飛行機 三台

要目	陸上(三台)	水上(二台)
中	七米七	十五米五
長	五米九	十米三
高	二米五	三米四
総量	五五六 Kg.	一六七〇 Kg.
記事		折疊時中約四米

(二) 防寒用

帽、外套、襦袢、袴下、靴(後歩用)各八百人分

(備考) 新式旧式各半ハス

卷脚絆、眼簾各三百人分

以上陸軍ヨリ借用ノモノニテ二月四日頃ニ當地着ノ予定此外飛行機服
五着分二月四日東京陸軍事務局屬員携帶シテ送附ノ筈
人員々數ニ鑑ミ適宜海軍防寒服ヲ搭載スルゾト

三 機問題

機ノ制式圖ハ工廠ニル筈ヨリ依リ作製ノゾト又管理局ヨリ機犬ノ借用費
用ハ受合フ故便宜ニ望ミテ借用セシメレ依テ即席ニ賀賀軍務局員ニ
小樽ニ借用方取計ハレリキ旨交渉ノ置キタリ明ニ九日北辰會ニ交渉
スルトゾト

二 兵員

吳、又ハ横須賀ヨリ借用予定ノ約四百人ニ對スル往復旅費ハ特ニ支給ス
人事局長ヨリ吳、横須賀人事部長へ借用件々電訓シアリ

借用寫字人事局送付

三臨時増員

〇三笠

矢科尉官

三、(内八軍令部より来組トシテ兼主女大尉)

機関斜尉官

一

兵曹船匠手

四

機関兵曹

六

水兵木工

一〇

機関兵

一〇

通譯

二

〇見島

分隊長

少佐 大尉

一

(備考)此以外北展会員一名多分乗艦スナラ場合依リ陸軍将校

一名衆穢スルモ知レズ

四、橈ノ状況

亞港及附近ノ「ミハエロカ」ニハ四五十台宛馬橈アルモ全地カハ要深ク一犬餘モ積ルストアル馬橈ハ使用ニ堪ヘズ由テ犬橈ヲ使用セラルヘカラス前記地方ノ犬橈ハ約千台（スターエラ商會所有四百餘ヲ含ム）アリ犬橈一臺ニ頭ヲ一組トス犬橈ノ積載カハ約四百貫ナリデカストリーハ殆ド人魚ノ地ナレバ橈藥類等無シ

五、氷ノ状況

（一）スターエラ商會カレン氏ノ談

間宮海峡ノ入口ヨリ南部ノダツシ海灣ノ中央部ハ氷結スルコトナレ只海岸氷結スルモ亞港ハ湾形氣セル為ニ氷中稍廣シド其十七露里以南、四、五ハ時ニ距岸四百米宛位ノ中ニ氷結スルコトアルモ東風吹ク時沿海岸方面ニ吹キ流サレ西風ノ時棒太海岸吹キ戻サル故ニ碎氷殆アルバ

大船客易ニ並港近ニ達シ得ル

四、安別(コル)奥田通造(電)予目着未ダ情報ナシ偵察然レタ海水ナシ

六、艦政局員口述覚書

イ、行動平常豫算防寒材料防寒用木炭予算外支辨

ロ、備品消耗品ニ對テ主計官別予算予備艦ト差額ノ告達不足ナレバ予

備額ヲ始末ニ當テ通知ノトニ物品庫主管ニ諮サレタシ一時臨時兼祖員

等ニ對テ備品如キ會典品ニ差額ナカルヘシ

ハ、小標於ニ載ル炭差支キ見込多ク三井ト契約スル事トモキモ搭載概量期

日電報得ハ好都合ナリ

(終)

先任參謀上京ノ際聴取覚書 其ノ二

一、北樺太方面事業情况

一、北辰會(三菱、久原、大倉、日本、寶田、五會社合同)根據地ヲ「ヤイト」ニ置キ

所より官吏及軍人へ悉く處形セラレト與偽未だ疑が爲念(二月十九日尼市電)

(二)更傳タル情報依ル様太アキマドラスク「ラ占領セシハエス、エル」ヲ主トスル革命委員

ナリト云フ(二月二十日尼市三宅)

(三)尼市方面過激派ノ勢熾強ニテ漸次同市迄リツアリ今方面邦人經營ノ

環境及牧場ニテ過激派ノ鼓動聲ヲ受テ居ル留邦民中彼等爲ニ拉去シタルモノ

アリ形勢險惡(以上二月十四日迄ノ情報ニ市三宅)

(四)危險人物出沒ニ般過激派氣分ナリ且ニ危殆ノ瀕ス武器少ク彈藥缺乏爲

ノ遺憾ナリ三月三日ヨリ漸次東海岸ヲ經テ南樺太ヘ引揚メトス殘存物品ハ

露人トシテ監視セシム今回引揚ルトハ多大損失モ今日迄ノ實重ク經驗ハ

北辰會ヲ誇リ信ス可キガハヨクモ来ルニ郡代官ノ話ニ同地ニ目下米國

資本家右技師ト稱ス者ニ名入込ニ近々當方面来ル由過激派ト稱スルア

リト云フ東海岸ヲ經テ南樺太ヘ引キ上リルニ付テハ散江ヨリ國境方面ニ聯

絡ス取リ且ツ當面必要ノ米味噌ヲ送ル様及數番發郵使物ハ此際中止

五、柳敷支聴長へ電報アリケル
平吉著 平吉著 成富

五、アヒキナトハ、過激派軍ニ臣領セラレ「ミライスク」方面ヨリ過激派襲来ノ
慮アリ南樺太ニ引揚、南始メ十三日主人先發、十四日平九名出発南部、
八十餘名ハ北部員來着、待テ漸次國境ニ向ヒトス事業地ヲ引揚、三富上モ
乱ス露人土人ノ監視ヲ附、降雪ヲ免テ各員引揚、途ニ就ク各員自重相助ケ
テ西日ニテ散兵ニケ去ル見込、待テ各支聴長東海岸ヨリ連絡取り呉レ様
電報アリケル 水信ヲ以テ無線電信ノ最終トス、遂ニ御健康ヲ祈ル

平三日著 成富
平四日著

二、主要作業
一、小錨鎖検査手入
二、防寒材料搭載

二月一日 日曜 日

位置 舞鶴軍港 天候 曇天 氣温 九度

主要作業 在り如シ

(1) 錨鎖手入 (1) 防寒材料各科ニ配分ス

(防寒材料品目数量各科配分量等ハ実験報告書ニ)

二月二日 月曜日

位置 舞鶴軍港 天候 曇雨 氣温 十五度

一、舞鶴鎮守府司令長官より左記訓令ヲ受領ス

見舞 艦長ニ訓令

一、北樺太方面ハ暴徒蜂起シ形勢頗ル不穩ナリ今迄得ル情報別紙如シ

二三笠見島ハ先任艦長之ヲ指揮シ準備完成次第出港北樺太「アレキサンドロ」

「フスリ」方面ニ策動シ居留民ノ保護ニ仕スヘシ

三、「アレキサンドロ」居留邦民ニシテ暴徒ノ拘禁ヲ受ケル者アラバ速カニ之ヲ解

放セシメ尚暴徒ウチテ将来居留邦民並ニ其ノ企業等ニ對シ一切危害

ヲ加ヘサラシムル爲メ折衝約ヲ徴スル等適宜ノ措置ヲ執ルヲ要ス

四、居留邦民中内地歸還ヲ欲スル者アルハ機宜軍艦便來便ヲ與フヘシ

五、本任務ハ努メテ穩健ヲ既ニ依リ達成ス期要スルハ陸戰隊ヲ揚陸スヘシ但シ

目的達成ノ迅速ニ歸艦セムルヲ要ス

六、本行動中艦保安ニ関シテハ特ニ注意ヲ拂ヒ結氷ノ情况ニ依リ任務遂行困難ナリト認タルハ適宜安全ナル地域ニ避幾退シ伏見ル直接海軍大臣ニ請訓スヘシ

七、本任務ニ関シテハ必要ニ應ジ海軍大臣直接指令セラルヘシ又重要事項頂ニ関シテハ要スルハ直接同大臣ニ請訓スヘシ海軍大臣ニ請訓セル事項頂ハ速ニ本職ニ報告スルヲ要ス

八、本任務中北極太ハ勿論「ライフス」方面ノ情况ヲ注意シ又第五戰隊司令官ト密接ノ連絡ヲ保持シ任務遂行上遺憾ナク期スヘシ

九、先任艦長ハ兩艦行動ヲ豫定シ報告スヘシ

一〇、左ノ通り出動準備作業ヲ予定ス

特別任務本部動準備作業豫定表 (九年三月二日調)									
日	曜	二九	三〇	三一	二	三	四	五	六
土	曜	木	金	土	日	月	火	水	木
見島		主要作業		入渠		防禦設備裝備 需品糧食被服搭載 傷品及諸材料搭載 被服糧食搭載 防寒設備裝着作業		出渠	
記事		入渠		修理工事ハ記日程以内ニ施行ス		出渠		彈藥搭載	
								石炭搭載	

八日	石炭搭載
九月	完成

備考

一、防寒用必需品材料分月旨追準備完成石炭運搬船ノ関係上三笠見島ト
通ジ一日千噸以下トス

二、引換為メ装填シ要スル大葉分月旨完成予定

三、準備出来次第出港小樽面々急航ノ豫定

三、新旧艦長交代ノ四主要作業

各科消耗品兵器需品及治癒品積込

三月三日大晴 日

位置舞鶴軍港 天候 曇 氣温 九度

一、左記 接受ス

宛舞鶴鎮守府司令長官

發第三艦隊司令長官

大海機密第四號十二號依り川原第五戰隊司令官ニ對シ三望見島ハ密接ニ連絡ヲ保持シ其任務ノ遂行ニ遺憾ナク期スキ旨電訓セリ

宛舞鶴鎮守府參謀長 兼軍務局長

軍務機密第十一番電報

三望見島ハ成可速ニ派遣セシムルヲ意存右知リ然ルベリ取計ハレタレ
尚飛行機ハ五日午後九時當地着又防寒用（一不明）四日迄ニ當地ニ新製
シ五日午前當地着（一不明）拂行ノ事定メ爲念

ニ主要作業 貯糧品機関料需品積込

二月四日 水曜 日

位置 舞鶴軍港 天候 曇 氣温 六度

主要作業ハ出渠三番疎濬ノ際當分四彈車貯糧品被服搭載

二月五日 水曜日

位置 舞鶴軍港

天候 雲

氣温 六度

主要作業 (一) 載炭三、五噸 (四) 貯糧品防寒被服准士官以上用糧食
搭載

二月六日 金曜日

位置 舞鶴軍港

天候 雨

氣温 八度

主要作業

彈藥搭載

二月七日 土曜日

位置 舞鶴軍港

天候 曇天

氣温 六度

主要作業 (一) 午前九時試運轉 爲出勤令十一時入港

(四) 火藥搭載 (一) 載炭 (上甲板積九〇噸)

1151

午後鎮守府司令長官永能士官以上對し訓亦あり要旨たる如し
内今回、如く特殊なるも締有任務當り得タルハ諸氏取りテ至
公未得限り有益に研究を積るべし
健康保持に注意するべし

二月八日 日曜日

位置舞鶴軍港 天候 曇 氣溫 五度

主要作業 水生糧品陸軍防害被服搭載

出港準備

[illegible]

1153

各科準備摘要

1154

航海科

就役及令時状況

一 経線儀、甲板時計、水路図誌類、還船室外航海科兵器
備品ハ殆ト完備

二 実施工事

昇光信号装置 救難浮標 懸時計 船務通信器修理

三 搭載品

水路図誌 第二区A全部 喇叭附屬品共 五個

経線儀 三個 甲板時計 一個 測深儀 一個

測程儀 一個 着色管 百本 火箭 四四

長号火 三二 短号火 三八 雷管 一〇二

火管 一二〇 緩火索 七五 烟火莢 三〇

電器一号形 八 長旗軍艦旗 信号旗 九 外國軍艦旗 五

四 特ニ準備セシモノ

揚渡線ノ増設 前機橋ノ電気煖爐ヲ取附ク

員數寒暖計圖受込ハ

一 就役受令時状況

第一機橋備艦ヨリ俄ニ就役シタル故當時ハ唯第一機橋トシテ大略ニ整備ト居リト過キズ其状況ハ如シ

一 兵器ハ第一機橋トシテ大抵ニ於テ完備ト居リ

一 艦營用品備品ハ第一機橋トシテ定額運リ完備ト居リ

一 全有能品ハ第一機橋トシテ年内與ヘ得ル程度

二 要員施工事

一 兵器 三五種砲ヲ砲分配索令砲發砲電路修理

一 船体 主艙砲名砲門各彈藥庫錠ノ作製

三 塔載品

イ 新兵器爲り、彈藥外全部

ロ 需品備品ハ仕務上必要ノ程度トシ消耗品ハ約六ヶ月分

ハ 兵器爲外 三年式機砲一陸式拳銃 副官儀用三脚架一

水雷
通信科

就役度令時状況

イ 無線電信部

通信長主管無線電信兵器諸装置皆無ノ状況ニシテ僅ニ機關長主管無

線電信用交流機及金配電盤裝備ニアリシノニ電信員ハ全部缺員

ロ 探照燈部

探照燈諸兵器ハ殆んど完備ニアリタレ尚確實ナル探照燈ヲ期シ難キ状態ナリ

ハ 艦内通信装置部

艦内諸通信装置ハ單ニ取付エト言フニ過キズ手入 換金修理ヲ施行スニ非ザレバ

完全ニ使用シ得難キ状態ナリ

六 實施之事並ニ搭載品

イ 本艦用無線電信諸裝置搭載裝備

（一）六式送信機（主裝置）（二）四式受信機（全上）（三）三式送信機（副裝置）

（四）附屬諸器具送受用紙

ロ 目的地ニ於テ陸上通信之目的ヲ在記兵器ヲ搭載セリ

（一）四式受信機 （二）二式受信機 尚遠距離受信ハ電球振以テ之

代爲ニ申請セシモ在庫品ナク取止ム

ハ 探照灯用反射鏡一個

（一）導用機（主裝置）
（二）就役受令時状況

イ 艦外底貝藻ノ附着甚シ

ロ 各要部ノ保護亜鉛ハ全部腐蝕セリ

ハ 全氏余及漲水集ハ分解手入ノ必要アリ

ニ 上甲板積陳不良ノ箇所多シ

水、防水扉、防水蓋ハ水密不完全、箇所多シ

ハ舷窓並ニ瓦窓ニ水密不完全、箇所多シ

ト各砲門ノ扉ハ一般ニ水密不完全ナリ

ハ兵員側ノ流水管ハ腐蝕ノ部分多シ

リ、海水及清水並ニ防寒用蒸気管ニ具合ナリ、

又下甲板リフトハ破損、箇所多シ

凡、絞盤ハ分解入ノ必要アリ

ヲ清水用手働唧筒ハ吸水不充分ナリ

前記十挺ハ舞鶴工廠ニ於テ二月七日迄ニ修理完成シ、ツハ本艦乗員ニシテセリ

六 特別工事

汽艇、艇首ニ鉄板、通船一隻底、即ニ覆板ヲ附著セリ

三 搭載品

備品、衣服、函外八十六箱、約三噸

消耗品 約三月分塗具類外百四十席 約五噸

特別搭載品

不 防寒装置用材料 四 碎氷用大鋸 四 鉄壁 二 概 三

但し能ハ鉄製モノハ（鼎鶴工廠）氷製モノニ（小樽）

四 経過並所見

渡令當時より二月三日迄ハ乗員僅カ四日充員ニシテ行ツ可キ事多クシテ日数
少キ為メ作業意氣 如ク進捗セズ三月五日ヨリ小樽出港迄ニ作業

大部分ヲ終リタリ

本艦ノ如ク任務上各部ノ保存ヲ入ラ常ニ施行シ能カレ艤ヲ免ル如

ク出勤ニ於テ故障ノ類 并ハ免ル能カレ所ナレバ主ナル故障ハ長ク

使用セザルモノアルヲ銘記セザルハナラズ

運用料（船中）
（船中）

一 就役受令時状況

一 行動要領を諸動索へ全部取外しあり

二 右舷錨ハ長ク使用セラルヲ以テ検査ヲ入ラセヌ

三 備品ハ海兵團練習艦ニテ完備

四 消耗品ハ予備艇特別定員ニ対スル約一月分在庫

二 搭載品

一 儀装品 大艇揚艇用導滑車

二 備品 約外意等全定員ニ対スル分 横着甲防舷物等

「カッター」ホーバ

三 消耗品 全定員ニ對スル三月分

四 特別搭載品

五 氷上用錨 二個

六 経過並所見 (船匠令レ)

終

機関科

就役後令時、状況

本艦ハカミ予備艦トシテ専ラ舞鶴海軍工廠ニ學卒練習用ニ供セラレ機関科ニテ僅ニ下士六名中十四名ヲ置ケルニ過ギス從テ機関ノ各部ハ悉ク

ナリ操盤多ク行フニ困難ナル状態ニアリトモ莫クモ機械神助機各部

調整及修理部修繕等施シ先ハ佳良状態ニ保持セラルルモト認ム

各部概シ九ノ如シ

第二主機概シ及調整装置

各部作部ハ永年使用ノ結果磨耗及吸鉛板及軸系中心

正、疑アリモ目下使用ニ差支ナシ

主復水器ハ兩舷共管板銹蝕帶抑取付部螺糸不良モノ數

具跡ニ下部管板銹蝕ヲ防シ甚ダシク銹蝕坐ラ腐蝕脱落シ管板

取付不可能モノ右舷主復水器ニ二本右舷主復水器ニ一本アリ又

管釣螺糸部損腐蝕、爲メ令換管換装不可能ナモ、右舷九本九舷
五本アリ何モ管ヲ接キ去リ真鍮製塞栓ヲ以テ填塞スリ目下、如
使用量多キモ時機ヲ得次第修理ヲ要ス

其他ノ副機ハ何モ、永年使用ノ結果、摩耗衰朽スル箇所多クモ使用
ニ差支キ程度ナリ

第二色

此部ハ一般ニ浸蝕度モ甚大、發生セル箇所ヨリ炊室ト爲替釜ヲ
接合部ハ胴板ト鏡釜ト継目並ニ各管、換氣部等アリ
多少腐蝕箇所アリ

第三煙突ハ箇左舷側ニ托リ四ヶ所屈曲部アリ以テ甚ク傾斜
シ居リ時機ヲ得次第修理ヲ要ス

第三色 補助機械

部分的ニ不良箇所アリ一般ニ良態ニシテ使用ニ差支ナシ

第四兵器

一、二号 発電機 原磁線絶縁不良を以て時折得次第修理
要ふ其他一部系良、個処アルモ一般に良能なり

第五船体

機関室罩板及炭庫並に海水管及汚水管等ハ般に腐蝕衰折あり

出征之際に特ニ機関部ニ實施せる事項

(一) 修理検査

一、工廠より三ヶ箇實施せラルモノ

一、煤中車(艀外底塗換外底諸孔保護並鉛換装主禰「キレグストン」

弁及主吐弁弁摺合推進器翼既付螺釘換付並推進軸腐蝕検査

推進軸張分承束金検査)

六、主復水岩管 衛帶弁部修理(特別に百個新製)

三、消防栓 弁摺合吸錫衛帶環新製

四 主送水機械主排水吸入弁摺合心棒修理

五 煙房用蒸氣管裝置一部改造

六 前部^四脚筒口解氷裝置蒸氣管新設

七 機動艇罐修理

其他小修理數件

八 船員手^三室員施^二多^一モノ

一 渠中之事（各部艦外衣通^二諸^一會^三嘴^四檢査摺合推進器^五習^六磨^七手^八入）

機械部

一 主復水器水壓試驗端部應急修理

二 主補送水機械分解檢査手入

三 主抽氣脚筒分解檢査手入

罐部

一 諸管裝置^二對^一^三防^四寒^五用^六外^七衣^八裝^九着

電機補機部

一 各種機及附屬諸管裝置防寒裝置實施

二 蒸氣暖房裝置整理補修

三 需品搭載

第一種和炭

三六五噸

罐水 二〇〇噸

内部油

二〇五

外部油

二七三八五

(白紋及黒線油)

糸屑

五六〇斤

木炭

二〇〇斤

點火薪

二〇〇束

防寒用材料

(蓑席繩 古被服 荒手 氈 古帆布類) 四九五〇斤

(他諸管へ配給モノ食ム) 別紙詳細

機關應急修理用材料 (銅管、蒸氣管、接手、丸頭銼、銅針、金木料) 若干

兵器應急修理用材料 (縛帶線、抵抗線、安全燈解片) 若干

其他一種消耗品兵器消耗品 六十八品 別紙詳細

備品 移動罐 金散子能其他若干

石灰袋 二二七七 依

三 兵員充實

特別定員下士中三名缺員一處 本任務三就役三三全定員置

現在 定員現員比較表如下

一機兵	二機曹	三機曹	四機曹	機	
				現	定
三	一	三	四	一	一
三	一	三	三	二	一
三	一	三	四	〇	〇
三	一	三	三	一	〇
一	〇	一	一	一	〇
二	一	一	一	〇	〇
一六	四	加	五	二	二

乙段ケタルモノ

海軍大臣ノ認許ヲ受ケ鼻鰐海軍工廠ヨリ材料ノ供給ヲ

缺員	合計		四機兵		三機兵		二機兵	
	現	定	現	定	現	定	現	定
一	二五	二六	一一	二	六		〇	八
〇	三四	三四	六	九	五		二	四
〇	一一	一二	一	一	五		〇	三
〇	一〇	一〇	一	〇	五		〇	四
一	五	六	〇	〇	一		一	三
〇	三	三	〇	〇	〇		〇	一
二	八九	九一	二五	一一	三〇	五	三	五三

機関科(機関)應急修理材料

品名	径	厚	長	数量
銅管	$1\frac{1}{2}$ "	10 #	16'	2 #
同上	$1\frac{1}{4}$ "	12 #	16'	2 #
同上	1"	12 #	16	3 #
同上	$\frac{3}{4}$ "	16 #	16	4 #
同上	$\frac{5}{8}$ "	16 #	16	4 #
同上	$\frac{1}{2}$ "	16 #	16	4 #
同上	$\frac{3}{8}$ "	16 #	16	4 #
蒸氣管接手	4	$\frac{1}{2}$		4 個
同上	3	$\frac{3}{8}$		4 個
丸頭鉚	$\frac{1}{4}$ $\frac{3}{8}$ $\frac{1}{2}$			10 個
銅針金	$\frac{11}{16}$ $\frac{5}{8}$ $\frac{1}{2}$			8 #

1169

機関科(電氣)應急修理材料			
品名	数称	数量	記号
抵抗線 20線		5000	應急用
電線 20線	配	5000	應急用
電線 20線	配	5000	應急用
電線 20線	配	5000	應急用

主計科

一、就役受令時、状況

八人員

受領前主計長

森鶴海兵衛主計官業務(筆記一厨一主厨三)

給與被服糧食需品共三乘員七拾名ニ對シ準備計畫ハ居タリ

二、財所主計部倉庫等完備

三、出動準備ハ針並ニ状況

方針

一月三十日 警備艦ト定マルト共ニ二等海防艦、定員ヲ置ケラレハ人員増加に伴フ準備ト特別任務行動中ニ起リ得ヘキ諸事項ト考量シ各種兵備品ハ大約三月乃至四月ヲ標準トシ準備計畫ヲ遂メタリ

四) 給與

二月一日ヨリ臨時軍事費支弁ト定メラレタハ直ニ臨時軍事費ヲ以テ所要經費ノ一部ヲ受込ニ尚特別任務就役中ノ經費ハ約四月分見込積リ合計六万八千六百拾貳圓ヲ請求受領ス特別任務遂行ハ必要ニ隨費ニテ認許ヲ得ルモノ次ノ如シ

A) 出張旅費參百圓支出ノ件

B) 洗濯夫ヲ傭入セス官品ノ洗濯ハ便宜兵員手ヲ以テ行フ

之要ニ要スル消耗品購入ノ為壹百圓支出ノ件

(G) 艦長接待費年額壹百圓或拾圓支出ノ件

(A) 行動中必要ニ應ジ消耗品直接購入ノ件

(B) 小樽在船中舟車馬類購入ノ為便宜所要高支出ノ件

(C) 小樽在船中犬靴一台購入ノ件舞鶴工廠ハ打合濟外貨ハ必要

ナキヲ以テ備ハス

尚外小港前羅士官以上ニ級遣手當ヲ支給ス

(II) 被服

定員或百奉各ニ對シ定期ノ交換付交換ニ要スル被服ハ本艦隊

備入當時ニ於テ三三五月分証憑書類依リ算出シ

請求度領ス

防寒被服令士卒定員式百奉五名ノ片軍地唯士官以上ニ

三名ニ對シ準備貸與スルトシ冬服各分庫ハ居留保護用ニ充ツ

貸與毛布、臺名付三枚、トシ尚舊留民保護用トシ、式百枚ヲ準備
レ合計臺名枚、供養ヲ受ケタリ當陸戰隊防寒用トシ陸軍
防寒服式百枚拾名分（但脚絆及眼簾ハ臺名分）蟒鶴衣量料
ヲ陸軍由リ供用準備ス

二糧食

二月ヨリ五月迄四ヶ月間式百枚名、總進數九三六。食不足給
食ナキモノトシ麵包食ナキニ食ハ豫定シ積込ラセリ

右、外總算對シ總食量百四十六回分ヲ用意セリ嗜好食ハ

食料一月約七十九回ナリ以テ四ヶ月間ノ所要見込高ヲ算出シ

計六百六拾五圓ノ積込ラセリ

ハ備品

ハ備品、食器

特別定員中下士卒七十名准士官以上七名（兼務者ヲ除ク）ナリニ屬シ

平百草名准士官以上三名ニ増加セシ爲メ之ニ要スル配食菜罐
詳食器及賄所用備品ハ總テ需品庫ヨリ貸出共品トシテ受入レ

イ 消耗品

受令當時ノ消耗品豫算額僅少ナリト爲到底所弁シ難カリシ
爲メ九年度ノ分月繰上渡ラ度々豫備セリ

ロ 直買豫算

受令當時備品残額七拾八圓四十四錢ニシテ官品ノ洗濯兵員
ノ手ヲ以テテス豫定ナリトテ以テ別ニ増額ヲ請求セス消耗品ハ受領
當時豫算残額四拾九圓九錢ニシテ特別仕務行動中竹皮割箸
購入代及電報料等々多額ヲ要スル見込ナリシヲ以テ百拾圓増額ヲ
受タリ

ハ 酒保

從來、經驗に依り所要數量を算出し積込し、モ煙草購入に就てハ
四月間、所要高を積込し得き資金ナリ且つ時日切迫し居り
注文、餘額ナリし所舞鶴海兵衛、好意に依り同國にて注文ナリし
モノを譲り度ナリ積込し、頗る都合ニ準備スルを得たり

其所見

一月三十日發言備船ト是ノ、共ニ主計長、交代アリ經費臨時軍
事實定ナラリ且准士官以上、更迭者多ク教員兵員未退艦者、給
與及時給モ月事ナリ以テ一月諸給與、整理シモナリハカラス

一方特別任務中、佐官被服糧食需品、準備ナリナルベカラズ
頗る多忙ナリ加へ特別任務に伴、庶務亦煩雜ナリ極々過重ナル
作業ヲ遂行セシモ幸ニ主計部員一名、新病者ヲモ出スル
ナリ、聊カ支障ナリ煩雜ヲ經過ス見ルハ、
欣快

(終)

軍医科

一、就役就令時衛生状況

船體兵界残関ノ修理需品搭載守爲ノ嚴寒ヲ冒シテ連日作業
 繁劇ニ至屢々夜間ニ及ブトナリ爲メ休養十分ナシ能ハサリシモ而モ氣
 極メテ旺盛ニシテ一名ノ疏行病傳染病患者ヲ出スコトナリ良好ナル衛生
 状況トシテ出動スルコトヲ得ナリ

一月五日下半身身体検査ヲ施行シ胸膜炎後肺症ニ神経衰弱一軟性下痢
 一慢性麻痺一ヲ発見セリ以胸膜炎後肺症ニ神経衰弱ハ入院治
 療ニ要スル程度ニ非ルモ劇務不通ト認メ補充交代セシメ軟性下痢
 ハ六日舞病ニ送院セリ然ルモ慢性麻痺患者ハ連日一作業ヲ劇ンセ
 カリシ爲メ急性症ニ至リ副胃炎ヲ併有スルニ至リ以テ之亦八日舞病ニ
 送院セリ三月九日舞病出港後寒氣日増シ之加天候不良ニテ波浪
 高クニシテ外傷急性咽喉炎等發生シテ入港後急性

虫蜂採集起炎一ノ公ニ艦収加藤不道ト認メ即ヨリ樽瘡院又院治療

ヲ休ニ記セリ

受信患者有状況九表ノ如シ

自正九年一月三日
至今 年三月三日
受信患者有 日別表

五日	四日	三日	二日	三月一日	全五日	一月三日
二四二	二四一	一九六	一一三	一〇六	六七	六八
二	一	一	一	一	一	六
一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	二
〇八三	〇四二	〇五一	〇九〇	〇九四	一七八	八八二

記事

神經衰弱者多難症ニ送院送籍

急性肺癆者一ノ難症ニ送院
即ヨリ樽瘡院

下土車身検査施行

十日	十日	十日	九日	八日	七日	六日
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
一	一	一	一	一	一	一
八	六	三	三	三	四	四
一	一	一	一	一	一	一
二	二	一	一	一	一	一
一、一九	一、三五	一、一九	一、一九	一、一五	一、六〇	一、五八

患者病類別表

神經系病一

營養良器之病

外被病一

外傷
137

備考

神經系病 一 神經衰弱 二月五 癲癇 三 癱瘓 七九七 一 營養不良 癱瘓

急性腸炎、急性腸炎、急性腸炎、急性腸炎

何毛小樽へ航海中荷極危七二二丁 危状一般輕微一兩六三丁

流行熱胃熱防接種並同ヲ施行
救性下痢ヲ鼻底ニ送院即ニ鼻閉ヲ通シ補

為性衝羞性剛畢夫下之舞疾二送院即自
毀外國之送外藉

舞鶴出羣

小樽六港
由中起矣
小樽病院
達以終

花柳病

恢復より花柳病に何れも出港ニ先々舞病に遷度ス外被病ハ其れ皆破傷ミ底病ニ
於テ并病外腸胃ハ名ハ胸部挫傷他ハ四肢ノ挫創ナリ

ニ准テ備極載ル迄治療品

二月三日月舞病常制科ヨリ規定治療用品其全消絶品試験用常名

内八年度額致額(從來乗員名以テナリト整テ備 船より三百名以内

乗員下ナリトテ兩者少差即ニ旨名以テ分トた記年額外及規定

外治療用品及破絶品

フロタルゴール 五〇 肝 ガリリン 三〇 肝 リン酸カリウム 一五五〇丸

綿帶小包 (甲)ニ〇〇個 左(乙) 五〇個

規定外治療用品等

防疫用石炭酸 一〇封 肝油 九〇〇丸 ガリリン 四五〇丸

サリチル酸 三塊 山田ロビン 一五〇丸 膠膏 五〇〇個

(終)